

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270600424
法人名	医療法人 山下医院
事業所名	グループホーム 昇山荘
訪問調査日	平成 20 年 10 月 14 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 27 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270600424
法人名	医療法人 山下医院
事業所名	グループホーム 昇山荘
所在地 (電話番号)	長崎県五島市吉田町2386番地 (電話) 0959-75-0500

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算	10.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	8 名	要介護2	8 名
要介護3	0 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89.3 歳	最低 80 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎県離島医療圏組合五島中央病院 山下医院 夏井歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、40年あまりの開業医経験から、重度化して島外に送らざるを得なくなる多くの高齢者を最期まで地元で看取りたいという熱い思いでグループホームを設立している。ホームには、運営者の思いがホームのいたるところに見受けられ、利用者が安心して生活できる場となっている。
グループホームは生活そのものだという管理者の信念のもと、利用者職員が、ともに野菜を作ったり、魚をさばくなど調理を行ったりしており、協働して日々の生活を営むという支援の姿勢が感じられる。職員は、長く生きてこられた利用者の生命の尊厳を大切にす支援を展開している。24時間入浴ができる体制を整えるなど、利用者のペースに合わせた、家庭の穏やかさの感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題等は毎月の会議で全職員で検討し、理念に関しては職員全員で考え、尊厳を重んじたサービス提供に努めており、地域との交流については、取り組みの計画を進めるなど、一つ一つ改善に取り組んでいる。
重点項目②	評価の意義をよく理解し、職員一人ひとりが自己評価を行い、全体の話し合いを通しての総合的な自己評価を行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、家族代表や利用者、市職員、地域代表者等が出席している。会議では、事業所の取り組みや改善点について意見交換を行い、サービスの向上に役立てている。また、管理者が市グループホーム連絡協議会の会長を務めており、行政と地域のグループホーム全体との窓口となり、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の面会の際に、利用者の日々の生活の様子や健康状態を伝え、話をすることで家族の意向を汲み取るよう努めており、意向や意見については会議の際に話し合い、業務や運営に反映するよう努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ゲートボール大会の応援に行ったり、事業所や法人内の行事のたびに地域の自治会や老人会へ案内を行い、交流を図るよう努めている。しかし、現在のところ十分な理解が得られず、交流が図りづらい状況にある。今後も長期展望に立ち、交流の糸口が見つかるよう継続した働きかけを行う強い意向を持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員みんなで考えた理念であり、その人らしい生活があるがままに支えていこうという職員一人ひとりの気持ちが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、常に理念の実践を意識した話し合いを持っている。「個人の尊厳を守る」ことを第一に考え、言葉で知らず知らずのうちに傷つけてしまったりすることのないように、一言一言発する言葉にも気配りをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ゲートボール大会の応援に行ったり、併設の老人保健施設との合同の敬老会や納涼祭等への案内を、自治会や老人会へ行ったりして、地域への働きかけを積極的に行ってきたが、現時点では十分な理解が得られない面もあり、交流も十分でない状況にある。	○	長期の展望を持ちながら、今後も折に触れ、自治会や老人会への働きかけを継続することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をよく理解し、職員一人ひとりが行った自己評価内容を全体としてとりまとめて、自己評価に取り組んでいる。具体的な改善課題についても会議において話し合い、改善に取り組んでいる。	○	自己評価は一人ひとりの振り返りがよくなされているが、今後は改善計画シートを活用し、より具体的な改善計画をもとに実施することができるようさらなる取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的の実施しており、事業所の取り組みや改善点について意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。		

長崎県 グループホーム昇山荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市グループホーム連絡協議会の会長を務めており、行政と地域のグループホーム全体との窓口となり、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁に面会に訪れる家族が多く、そのつど利用者の日々の生活の様子や健康状態等を家族に直接伝えている。遠方に住んでいて面会の少ない家族へは、毎月電話による状況の報告を行っている。また、不定期ではあるが広報誌を発行し、メッセージカードを添えて家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のたびに家族と話をする機会をつくり、家族からの意見を聞くことができるように努めている。また、いつでも苦情や意見が出せるよう意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動や退職はほとんどなく、職員が安心して働きやすい環境、意見を出しやすい環境をつくれるよう、管理者自ら話しやすい雰囲気を作っている。異動時の利用者のダメージを防ぐ体制もつくられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の学習会、併設施設との勉強会など、学ぶ機会を設けている。また、グループホームの全国大会や実務者研修等への参加促進も行っている。研修参加者は、会議などの際に他の職員への伝達講習を行い、学びの共有を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネジャーの交流会や会議に参加して、サービスの質の向上の為の取り組みを行っているが、介護職員同士の交流はまだ行われていない。	○	今後、ボーリング大会の開催など、事業所同士の交流が計画されているので、実施を期待したい。また、グループホーム協議会の研修会等を通し、交流を図り、研鑽し合える機会が増えることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人の自宅や入院先に何度か訪問したり、本人や家族が自由に見学できるようにしたりして、事業所の雰囲気に馴染みやすいようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を干すのは職員だが、取り込んだ洗濯物は、利用者がたたむなど、職員と利用者が日々の生活の中で、共同作業を行っている。また、野菜の栽培に慣れた利用者からコツを教えてもらうなど、互いに支え合いながら日々の共同生活を楽しく送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情等から、利用者の意向を把握するようにしている。また、家族が面会に訪れた際の日常会話の中から、それまでの本人の生活パターンや暮らしぶりを想起し、思いや意向を汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	特別にカンファレンスのときに家族を呼ぶことはないが、日々の家族との会話の中から意向を引き出し、本人の思いを尊重し、介護計画に反映させていくよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1回見直しを行い、常に現状に即した、具体的な内容となるようにしている。また、定期的な見直し以外にも、状態の変化に合わせて随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時、家族の付添が困難な場合は、臨機応変に職員が対応している。また、本人の身体状況により、通院が無理な場合は、訪問診療が受けられるようにしている。そのほか、併設施設の理学療法士によるリハビリを週2回利用できるようになっており、身体機能の低下防止に役立っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関をかかりつけ医としているが、希望により入居以前のかかりつけ医への受診は自由であり、家族が通院に同行できない場合は、職員が臨機応変に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の老人保健施設や近隣の医療機関等との連携のもと、「利用者重度化に対する指針」に、利用者が重度化した場合の対応を明記しており、利用開始時には本人や家族に説明し、同意をしっかりと得ている。また、繰り返し話し合いを行い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保には特に気を配っており、排泄誘導時の言葉かけの一つ一つにも配慮が行き届いている。また、個人情報保護の面からも、記録や写真等の取り扱いに細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、24時間自由に入浴できるなど、本人の希望に合わせて対応している。また、お酒やタバコ等の嗜好品についても、管理のもとで認められており、一人ひとりのペースや好みに応じた支援を展開している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳等、利用者と職員が一緒に行い、ともに食卓を囲んで楽しく食事をしている。また、菜園から収穫した野菜を食卓にならべ、みんなで喜んで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間本人の希望に合わせて入浴ができるよう体制を整えており、必要に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりができることを尊重し、職員が一緒に行うことで毎日の生活をいきいきと過ごせるよう支援している。また、身体機能が低下している利用者にも、座ったまま新聞を丸めて工作をするなど、楽しめるよう工夫をして対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	加齢とともに、本人たちはあまり外に出て動きたがらなくなってきたが、ドライブは好きなので、併設施設の車が使用できる時に、努めてドライブの機会を持つようにしている。季節を感じられるような花見などの行事はお弁当を持ち、家族の参加も得て外出している。	○	遠出のドライブなどの外出ができなくても、ホームの周辺を散歩したり、屋外にベンチを設置したりして、外気に触れる機会を持つよう期待したい。また、車椅子でも楽に移動できるように、周辺に散歩道を作る計画があり、今後期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、夜間のみ安全のために施錠する事となっているが、日中は自由に出入りができるよう鍵をかけていない。屋外に行こうとするときも本人の自由に出来るようにしており、職員が後から付いて行っている。現在は、利用者も落ち着いており、職員に声をかけず外出する利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがきちんと整備され、避難訓練も年2回定期的に行っている。併設施設の職員との連携も図りながら取り組んでいる。	○	これまでは職員のみでの訓練を行ってきたため、今年は、利用者も参加する避難訓練を計画し、災害対策のよりいっそうの対応が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを全体的に考えながら、利用者とともに献立を立てている。水分補給については、一人ひとりに専用の500mlのペットボトルを準備し、毎日確実に摂取できるように取り組んでいる。また、食事時の飲水、入浴やおやつ時の水分摂取の声かけなどをしながら、1日の水分摂取を確保できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、観葉植物を置いたりして、温かい家庭的な環境づくりを心がけている。また、鯉のぼりや雛飾り等季節感を取り入れる工夫も行っている。居間にはソファがゆったり配置され、くつろげる共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族と話し合い、使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせる居室になるようにしており、一人ひとりの自由な空間となっている。また、畳の部屋であっても、身体機能が低下した利用者には、必要に応じ、マットを敷き、ベッドや好みの家具を利用できるよう工夫を施している。		